

保育計画成果報告書

法人名等	学校法人 九州聖公学園
施設名	久留米天使こども園
報告者（役職）	早川 成（園長）
住所・連絡先	福岡県久留米市野中町 1 2 7 9
	☎ 0942-38 - 5448 E-mail info@tenshi-kodomoen.com

○タイトル（保育計画）

"いのち、が息づく園庭づくり ～センス オブ ワンダー を育む保育を目指して～

○主な助成備品

ビオトープ 植樹

1. 保育計画策定の目的

・天使こども園では2022年度～2023年度にかけて園舎全面改築の施設整備に取り組んだが、園舎解体後の園庭整備に際し、豊かな五感を育てるために、身近な自然に日常的に触れることができる環境を創りたいと考えた。季節の移り変わりを感じ、虫や植物の生態系に気づき、自然環境について考えるきっかけとなるような園庭環境の中、展開される全ての活動において子ども達の主体的な遊びが生まれ、保育者主導ではなく、子ども一人ひとりの興味関心や成長発達に合わせたオリジナルな保育が創出されることを期待した。

・子ども自らが見つけた遊びの中で、「感じる→気づく→やってみる」という経験をし、失敗や試行錯誤を繰り返しながら、考えたり調べたり、友達と協力したりしながら、夢中になって遊び込むことを目指す。また、自由な時間と空間の中で満足するまで遊ぶことによって、意欲や積極性、思考力、表現力、集中力、コミュニケーション力が自然と培われ、達成感や自己肯定感を味わうことができるような環境を整える。

2. 具体的な実施内容

年間保育テーマ 2022年度「"やってみよう"を保育にする」

2023年度「"おもしろい"を面白がる」

より「子ども主体の保育」であるために、2022～23年度は上記のテーマで取り組んできたが、2024年度は園庭整備に伴い「"環境、で保育する"をテーマとした。保育者が何をするかではなく、子ども達は何を学ぶかを大切にすること。どんな保育で育てるかではなく、どのような環境があれば何がどう育つかを考え、モノ、人、空間、方法等々、周囲の環境を見直すことを目標に保育に取り組んだ。

①北側を広く自由に使える運動場に、南側を自然豊かな園庭として環境づくりを計画



何ができるのかなあ？



工事の人ってかっこいいよね



・工事現場も園内にあれば大切な環境のひとつです。子ども達にとっては完成までの間、作業をしている様子を見るのもとても良い経験になりました。作業場所や入ってはいけないところにコーンを並べることを覚えました。まさに、学ぶは真似るから…です。

・おやじの会が園庭の環境づくりに協力してくれました。子どものための遊び場づくりは、おやじにとって作業ではなく遊び！幼稚園では親も子も遊んで育つのが一番です！！

②ビオトープが完成

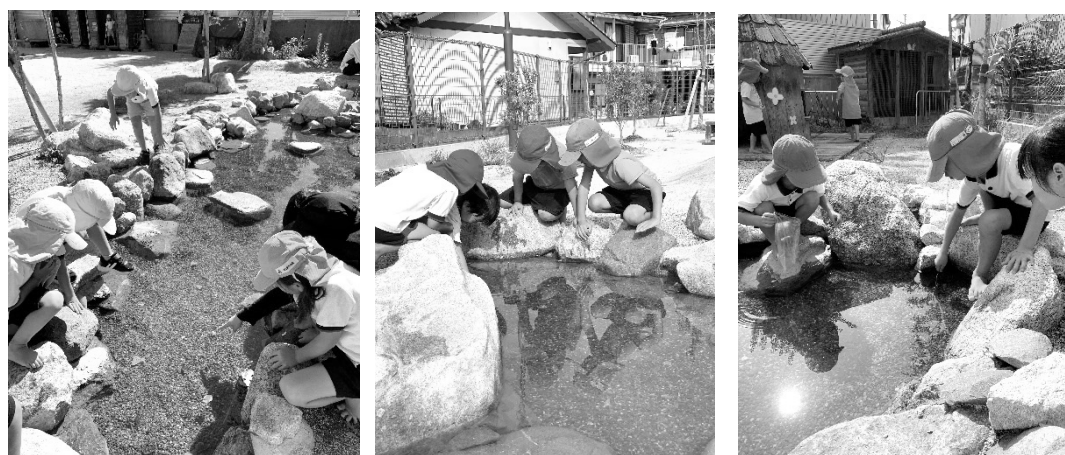


入ってもいい？ やったあ！ 興味津々の子ども達です。

③遊び方のいろいろ



まず、年少組（３歳児）は石の上を渡ったり登ったりを楽しんでいました。ビオトープの意味や中身よりも、遊具としての面白さを発見したようです。



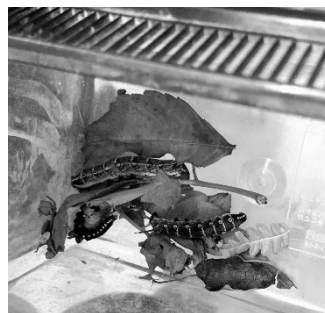
年中組（４歳児）と年長組（５歳児）は水の中に興味を示しています。「何かいないか」と探したり、「見つけたら捕まえよう」としたりして遊んでいます。

④最初のお客さんはトンボでした



水の中に動いている虫がいるのを見つけ、幼虫のヤゴであることがわかりました。トンボがお尻をつけて卵を産んでいるのも見るのができ、岩肌には抜け殻を見つけました。

⑤ 其他のお客さん



ビオトープの完成後、クスノキにコゲラがやってきたり、トカゲを捕まえたり、いろいろな種類のイモムシを見つけたり、園庭がとてにぎやかになってきました。そんな中、大事件が発生！大事に育てていたキュウリが食べられているのが見つかったのです。犯人はカラスじゃないか？と考えた子どもたち。誰かが「かかしを作ったらいいんじゃない？」と提案し、ペットボトルや牛乳パックで楽しい案山子ができ上がりました。考えて、話し合っ、やってみて…と沢山の経験をして、いろいろなことを学んだことと思います。

⑥ 季節を感じる経験



秋から冬にかけて紅葉する樹木を植えました。植木屋さんの作業に興味深そうに見入る子ども達。さっそく落ちていた赤や黄色の葉っぱを使いまごとして遊び始めました。



3学期、氷が張っているのを発見した子ども達は大興奮。雪のかたまりを水に落として変化を楽しんでいる子もいます。気温や物の変化を五感で感じる大切な経験ができました。

3. 成果と評価



自然の変化に、子どもの感性が強く刺激されているのがよくわかりました。見つけ、捕まえ、触れる遊びから、育て調べる遊びに発展する姿が見られたことにも手応えを感じています。また、意欲や積極性、試行錯誤する力、思考力の育ちに、予想以上に成果があったと感じています。何よりも、園庭での多彩な遊びが日常的に展開できること、子ども主体の個別最適な学びの環境が整ったことが最大の成果です。

4. 今後の課題と展望

完成が遅れ初年度は夏からのスタートとなりましたが、2年目は春から活動できるため、更に多様な生き物を育てたり樹木に巣箱をかけたりしながら、子ども達の遊びが進化、また深化できるよう工夫し、より豊かな自然環境を創ることに努力したいと思っています。